



ASLE-Japan／設立準備会

Newsletter

The Association for the Study of Literature and Environment
in Japan

April 25, 1994 Vol.2, No.3

ASLE-Japan／文学・環境研究会（仮称）

第1回（設立）総会のお知らせ

昨年秋以来、計4回にわたる準備会ミーティングを重ねて参りましたが、いよいよ研究会として出発する日が近づきました。ミーティングを重ねるごとに参加者のネットワークが広がり、また設立への意欲がたしかな手応えとして感じられるようになりました。（例えば、本号ニューズレターの充実ぶりをご覧下さい。小さくともたしかな動

き——文字どおり胎動——を感じとっていただけるのではないのでしょうか。）この勢いを承けて、いよいよ、設立総会を下記の要領で開催いたします。どうぞ奮ってご参加下さい。蛇足ですが、当日は日本英文学会大会の2日目に当たります。熊本へお出かけの方は、お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日時：5月22日（日）午後1時より

場所：熊本大学教養部新F棟3階 F32教室

●主なスケジュール

◎受付開始 午後1時00分

◎総会開始 午後1時30分

第1部 報告および協議（会則、役員選出その他）

第2部 特別講演 ASLE-U.S. 会長 スコット・スロヴィック氏

"Why ASLE? The History and Philosophy of the Association for the Study of Literature and Environment (tentative)."

講演 岡島成行氏（環境ジャーナリスト、読売新聞）

「アメリカン・ネイチャー・ライティングの背景をめぐって」

第3部 茶話会（今後の活動への意見交換）

◎総会終了 午後5時30分（予定）

なお、総会終了後、夕食をとりながらの懇親会を予定しております。こちらへも奮ってご参加下さい。

*総会へのご出欠は5月12日までに同封の葉書でお知らせ下さい。

ASLE-Japan の「会則」および日本語名称について

第4回 ASLE-Japan 設立準備会ミーティング

去る4月3日(日)、東京渋谷の勤労福祉会館にて4回目の準備会会合を持ちました。参加者は次の13名の方々です。(順不同、敬称略)

- 宮下雅年 (北海道大学)
- 土永孝 (北海道大学)
- 石井倫代 (芝浦工業大学)
- 太田雅孝 (大東文化大学)
- 西村頼男 (四天王寺国際仏教大学)
- 野田研一 (金沢大学)
- 大神田丈二 (山梨学院大学)
- 成田雅彦 (専修大学)
- 笹田直人 (宇都宮大学)
- バート・リヒター (宮崎国際大学)
- スコット・スロヴィック
(サウスウェスト・テキサス州立大学)
- 福田光治 (聖徳大学)
- 外岡尚美 (青山学院大学)

来る5月22日(日)、熊本大学での設立総会を前にした最後のミーティングでした。主要課題は「会則」についての具体的な検討にありました。伊藤詔子氏(広島大学)作成の原案と、成田雅彦氏訳「ASLE-U.S.規約」を比較対照しながら、検討を行いました。事務に暗い世話人の準備不足にもかかわらず、貴重なご意見、ご指摘をいただいたおかげで、第1条～5条まではほぼ決定いたしました。第6条以下は、熊本における発足会に間に合

うよう、代表世話人および代表幹事間で調整し、原案を策定する予定です。なお、日本語名称については未だ決定しておりません。いいアイデアがありましたら、世話人までご連絡下さい。「文学と環境研究会」? 「文学・環境研究会」? 「文学/環境研究会」? 「環境文学研究会」? 「環境・文学研究会」?

なお、この日は昼食を挟んで、渋谷・新宿と場所を移動(放浪)しながら深更まで話が弾みました。ご参加下さった方々に心よりお礼申し上げます。とくに北海道そして九州から馳せ参じて下さった方々、有り難うございました。ややもすると設立準備というプラクティカルな課題に時間を取られすぎ、私たちの会はいったい何をしようとするのか、メンバーはそれぞれどんな形で接点を持ちうるのか、といった本質的な議論をなかなかしないままここに至っております。これはこの会の性格付けそのものを依然として曖昧にする結果となっております(曖昧で悪いということもありませんが)。したがって、熊本での設立会はこの問題に関する積極的な議論の場ともしたいと思っております。世話人としての見解を敢えて申し添えれば、この会はかならずしもネイチャー・ライティングのみを研究する会ではないということ。もっと広義に、文学が自然あるいは環境をどうとらえてきたか、どうとらえているか、に関心のある人すべてに開かれたもの、という点を強調しておきたいと思っております。〈野田〉

